

理数研 40 周年に寄せて

東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 小久保 正 己

1 平川淳康先生と理数研

理数研は故平川淳康先生の献身的な御努力によって生まれ、出身大学にこだわることなく研究の場を提供し、多くの人材を育ててきたことはよく知られております。

平川淳康先生は、とにかくこわい先生ということになっています。先生はどんなときでも数学や数学教育にあいまいな態度をとることを絶対に許しませんでしたから、時には厳しく叱られた仲間もおります。また、この姿勢は、学生ばかりでなく、研究会に来られた先生方に対しても同じで、係が無理にお願いした発表者に対しても、容赦なく追求する場面もありました。

御高齢になられても、理数研への思いはますます強くなられたように思います。毎年4月の理数研総会には、必ず出席されるのですが、体調を心配して御家族にはいろいろな御苦労があったと伺っております。

平川淳康先生は平成元年10月14日に逝去されましたが、葬儀の後、御遺族から理数研に御寄付をいただきました。これを基金として、その利子によって、理数研会員の研究を助成する「平川淳康記念教育研究奨励事業」が平成3年度からスタートしております。

社会情勢の変化によって、こうした事業の継続が困難になっていますが、会員の皆様の支えにより、何とか、平川淳康先生の厳しい研究姿勢を受け継ぎ、理数研、そして数学教育を発展させていきたいと考えます。

2 教育改革と算数・数学教育

中央教育審議会第1次答申（平成8年7月）、第2次答申（平成9年6月）を踏まえた教育改革を目指す様々なプログラムが進行しており、現在は、教育課程審議会における算数・数学をはじめとする各教科の扱いに関心が集まっているかと思います。

確かに、算数・数学の授業時間を確保することができなければ、立派な算数・数学教育プランも絵に書いた餅となり、先生方の授業からますます「ゆとり」を奪ってしまうおそれがあります。

しかし、その一方で、算数・数学教育を教育改革の視点でとらえ直す力強い動きがなければ何も変わらないことになります。そのためには、一人一人の子どもの個性を生かし、豊かな人間性や創造性をはぐくむ教育を進める観点から、自らの授業の有り様を思い起こすとともに、これまでの算数・数学教育改善の取組を整理し、大きな流れを作っていく必要があります。また、算数・数学教育において、「生きる力」や豊かな人間性をどうはぐくんでいったらよいか、意識して考えていく必要があります。

TT（ティ・ティ・ツグ）の授業の6割以上は算数・数学の授業で実践されています。また、パソコンを活用した算数・数学の授業も成果を挙げてきています。こうした算数・数学教育の努力を大事にしていきたいと思っております。